

船舶事故等調査報告書

平成21年10月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第18号	
事故等種類	火災	
発生日時	平成21年1月16日 01時05分ごろ	
発生場所	東京都硫黄島東方120km付近 (概位 北緯24°57′ 東経142°30′)	
事故等調査の経過	平成21年1月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	漁船 第三ふく丸、19.94トン	
船舶番号、船舶所有者等	ON2-0255（漁船登録番号）、三高物産株式会社	
乗組員等に関する情報	機関長、六級海技士（機関）（機関限定）	
死傷者等	なし	
損傷	補機発電機固定子コイル焼損	
事故等の経過	本船は、平成21年1月8日機関長を含む日本人3人のほか、インドネシア人3人及びフィリピン人2人の8人が乗り組み、高知県須崎港を出港し、1月16日01時05分ごろ、小笠原諸島周辺で操業中、機関室からの異臭に気付き、補機駆動発電機から黒煙が出て、消火活動を行う前に機関室内に黒煙が充満したことから、消火活動を断念して全員救命筏で退船し、近くで操業中の第十八南海丸に救助された。	
その他の事項	本船は、昭和52年9月11日進水したまぐろ延縄漁船で、補機駆動と主機駆動の発電機を搭載しており、補機は進水当時から未整備のまま使用されていた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり あり なし 補機駆動発電機は、内部の巻線が発電機軸に取り付けられた冷却用ファンで冷却され、軸受にグリースが封入されたボールベアリングが使用されているが、冷却ファンで機関室の空気とともに吸引された浮遊油分や軸受から漏洩滴下した汚損グリースなどが付着堆積したまま、開放整備されずに経年使用されていたことから、絶縁皮膜が劣化して内部の巻線が短絡発火した可能性があると考えられる。
原因	本事故は、補機駆動発電機の整備が行われていなかったため、内部の巻線の絶縁皮膜が劣化し、本船が小笠原諸島周辺で操業中、同巻線が短絡して発火したことにより発生したものと考えられる。	